

(仮称)惣辺奥瀬風力発電事業に対する地域環境と共存・共生できる再エネ事業の形を模索する会合

実施日：2月16日（木） 13:30～16:00 十和田市南コミュニティセンター

テーマ	議題	事業者発言	地域の方々の発言（観光業関係者、第一次産業関係者、関係団体）	コーディネーターによるまとめ
エネルギー	再エネの必要性	・2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の宣言があり、エネルギーにおける問題解決の取り組みの一翼を担うために全国でプロジェクトを推進している	・気候変動による異常気象災害は世界中で年々増加しており、カーボンニュートラルを実現する上で、再生可能エネルギーは必要 ・再生可能エネルギーは必要だが、導入を実現する上で、地域の自然環境をどのように守っていくかは難しい問題である ・宅地と畑のソーラシェアリングができれば、開発行為もせずに済む、省エネと再エネを組み合わせれば環境負荷も減らせると考えている ・環境と調和のとれたエネルギー開発を行っていくべき	再生可能エネルギーの必要性について皆さん理解しているが、地域としてどのようなエネルギーを導入するか、地域の自然環境と再生可能エネルギーの共生方法については、参加者各々の立場や活動方針によって様々な意見があり、本会で共有することができた
	地域において	・事業区域に地元と共生した風力発電事業を運営するために、地域の問題を解決すると同時に事業に対する心配な意見に対しては可能な限り計画の検討及び地域貢献策、共存方法を模索していく	・青森県は大規模な再エネを導入をやりすぎていると思う、地域内でどう導入するか工夫をする必要がある ・十和田には水力が5つあるので他の再生可能エネルギーはいらない	
自然環境	景観		・中間報告会で風車は見えないという話があったが、四季を通じて山の木々も変化して見えるのではないかと ・惣辺の展望台は素晴らしい場所でもみんなに伝えていきたい、そこに180mの風車が建つのは圧迫感があると思う	自然環境について守りたいという想いは共通であるが、保全していく必要がある。再生可能エネルギーの導入によって失われる可能性もあるが、気候変動の脅威は想定を上回るものであり、守りたいと思っていた自然環境が守れなくなる可能性もある。地域の皆さんで保全したい自然環境について優先順位をつけることや言語化して話し合うことが重要である
	動植物	・動植物（クマタカ等）の影響については、風力発電機稼働後も事後調査を行う。調査の結果を皆様へ公表する	・希少な動植物へ影響が出た場合、どのように返してくれるのだろうか ・風力発電における開発行為によってクマが人里に下りてくるとは心配	
	騒音	・乳牛は、建設工事の打設音の大きさではなく、突発的な音に影響を受けやすいと記載がある文献がある正しい情報として提供していきたいながら、議論していきたいと考えている	・中間報告会で、六ヶ所村の風力発電事業において乳牛への影響がないという話があった。調査データを開示していただきたい	
文化財	十和田古道	【質問】 ・十和田古道はいつから存在するのか ・鳥居があったことは鹿角日誌に記載があるが、鳥居が遷葬所と言われているのはこの文献から判断されたのか ・遷葬所の場所について教えていただきたい（図面を提示）	【回答】 ・中世の道である。12世紀後半に修験者たちによって改変がされた ・鳥居は結界を意味しており、鳥居をこえた先が遷葬所であると思う ・遷葬所の場所については、牧場内であると見当はついていない（※会合の場で位置説明を受ける）	世界遺産登録に向け、様々な詳細な調査や関係している方々へのヒアリングを行なっていく必要がある。参加者から登録の目標を30年～40年後に見据えている発言があり、地域の関係者と事業者が共同で世界遺産登録に向けた活動を行っていくことは難しいのか
		【質問】 ・古道自体も牧場として改変されている部分もあるが、古道の痕跡が残っているところをどのように保全していくのか ・五戸道は国有林内で管理は国になると思うが、森林管理署と協議はしているのか	【回答】 ・保全に関しては範囲がないため、我々でできることではない。行政の方と相談して進めていくことになる	
	世界遺産		・将来的な最終的な目標は、十和田古道が日本遺産登録として登録されること及び自然（十和田湖・奥入瀬渓流）を絡めた世界複合遺産登録として登録されることである ・古道の価値が落ちるような風車の建て方は、世界遺産登録という大きな目標に妨げになる ・全く反対ではない、古道に考慮した事業計画が可能か話をしたい ・古道の5m幅だけの保全ではなく、その周囲の景観を含めて配慮してほしい ・牧場の関係者として、惣辺の歴史を重んじ継承していくことも重要だが、道路などの環境を良くしていく必要がある ・風力発電事業と両立できるよう、皆さんと話し合いたい ・古道の保全に予算は必要であるが、風力との共存（整備）ではなく他に方法があると思う ・観光業従事者として、十和田古道へ大型バスでのアクセスは難しいが、十和田湖トレイル（八戸駅～十和田湖）が流れているためトレイルや、林道をオフロードとして自転車でも周るのも良いと思っている、	
産業	畜産業		・昨今、飼料・肥料燃料の莫大な値上がりにより畜産農家の経営は大変厳しい ・十和田は、長手・ごぼうを生産しており、その中で畜産業を始めた。牛から優良な堆肥が取れる。これが野菜に活かされ循環型農業がある ・畜産がなくなれば循環型農業もなくなってしまう恐れがある	産業人口の高齢化や産業の衰退が進行すると、まち全体の人口減少にもつながる。十和田の産業（観光業・畜産業・林業）をどのように盛り上げていくのかについて総合的に話し合っていく必要があるのではないか
	林業		・若手の労働者不足 ・機械化が進んでいるが、造林や下刈りは人の手で行うことが多いため、労働者が不足する可能性がある。	
	観光業		・十和田湖周辺では商店や旅館が減り続け、人口も少なくなっており、何とかしたい ・十和田信仰の歴史は十和田湖の文化の一つで、十和田観光を復興させるために大きな可能性を持っている ・この町は本来十分な魅力を持っており、風車がなくてもやっていけると思う ・風車が観光資源になることはない ・風車に魅力を感じており、個人的には風車の下に立ってみたいと思う ・牧場関係者として惣辺周辺でも観光客を誘致したいと考えているため、観光関係者の方と一緒に考えていきたい	
その他 (進行上当日回答がなかったものに関しても緑色にて補足)		【回答】 1.行政への手続きをする上で、改変区域を必要最小限に抑え、濁水への対策を行う 2.想定外の災害対策については青森県や国における森林法他や技術指針を遵守し工事完了後も保守管理に努める 3.弊社であり、弊社単独の事業で進めている 4.撤去費用については事業スキームの中に含めており、事業終了後確実に撤去を行う。仮に事業主体が倒産するようなことがあっても事業自体は継続され、融資先の金融機関によって事業主体は後継事業者者に引き継がれることから撤去に関しては問題ないと考えている	【質問】 1.惣辺地域は奥入瀬に近く、惣辺川は奥入瀬渓流に流入する川のため、上流で何かがあれば奥入瀬渓流に直接被害が及ぶのではないかと 2.想定外の自然災害が起きた際の安全対策はどのように考えているのか 3.本事業の仕掛人は十和田市なのか、事業者なのか 4.撤去費用の中に赤字が生まれて倒産した会社があると聞いたが、大丈夫なのか	